確認試験
① 本品の表示量に従い、L-アスコルビン酸製造用原体１gを含む量を量り、水50mL、及び硬化油、高級飽和脂肪酸、脂肪酸、植物性油脂又は動物性油脂を含む製剤にあっては、クロロホルム15mLを加え、振り混ぜた後、静置し、水層をろ過し、試料溶液とする。この溶液５mLを量り、L-アスコルビン酸製造用原体の確認試験①を準用する。
② ①の試料溶液１mLにメタリン酸溶液（１→50）19mLを加え、混和する。この溶液５mLを量り、以下L-アスコルビン酸製造用原体の確認試験②を準用する。
定量法 硬化油、高級飽和脂肪酸、脂肪酸、植物性油脂又は動物性油脂を含む製剤にあっては第１法、その他のものにあっては第２法を用いる。
第１法 L-アスコルビン酸（$C_6H_8O_6$）約0.1gを含む量の本品を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、クロロホルム50mLを加え、振り混ぜた後、ガラスろ過器（G４）を用いてろ過し、ろ過器上の残留物を、さらに、クロロホルム20mLずつで３回洗う。残留物のクロロホルム臭がなくなった後、メタリン酸・酢酸試液約190mLで抽出しながらろ過し、ろ液を200mLの全量フラスコに入れ、メタリン酸・酢酸試液を標線まで加えて200mLとし、試料溶液とする。試料溶液２mLを全量ピペットを用いて量り、メタリン酸・酢酸試液８mL及び過酸化水素試液２mLを加え、振り混ぜた後、滴定用２，６-ジクロルフェノールインドフェノールナトリウム試液で溶液が５秒間持続して淡紅色を呈するまで滴定する。同様の方法で空試験を行い補正する。
滴定用２，６-ジクロルフェノールインドフェノールナトリウム試液１mL＝A mg $C_6H_8O_6$
A：滴定用２，６-ジクロルフェノールインドフェノールナトリウム試液１mLに対応するL-アスコルビン酸（$C_6H_8O_6$）の量（mg）
アスコルビン酸標準品をデシケーター（シリカゲル）で24時間乾燥し、その約0.05gを0.0001gの桁まで量り、その数値を記録し、メタリン酸・酢酸試液を加えて溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、更にメタリン酸・酢酸試液を標線まで加えて100mLとし、以下試料溶液の場合と同様に操作し、Aを求める。
第２法 L-アスコルビン酸（$C_6H_8O_6$）約0.1gを含む量の本品を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、メタリン酸・酢酸試液150mLを加え、激しく振り混ぜた後、ろ過し、ろ紙上の残留物をメタリン酸・酢酸試液15mLずつで２回洗い、ろ液及び洗液を合わせ、200mLの全量フラスコに入れ、更にメタリン酸・酢酸試液を標線まで加えて200mLとし、以下第１法を準用する。
(イ) 保存の方法の基準
遮光した密閉容器に保存すること。

⑲ L-アスコルビン酸カルシウム
ア 製造用原体
(ア) 成分規格
含量 本品は、定量するとき、L-アスコルビン酸カルシウム（$C_{12}H_{14}CaO_{12}\cdot 2H_2O$）98.0%以上を含む。
物理的・化学的性質
① 本品は、白色～帯黄白色の結晶性の粉末で、臭いはない。
② 本品は、水に溶けやすく、アセトン、エーテル又はメタノールにほとんど溶けない。
確認試験
① 本品の水溶液（１→100）２mLを量り、0.1mol/L塩酸４mL、ニトロプルシドナトリウム試液５～６滴及び１mol/L水酸化ナトリウム試液２滴を滴加するとき、溶液は、30秒以内に青色を呈する。
② 本品0.1g（0.05～0.14g）にメタリン酸溶液（１→50）100mLを加えて溶かし、この溶液５mLに、溶液が僅かに黄色を呈するまでヨウ素試液を滴加した後、硫酸銅溶液（１→1,000）１滴及びピロール１滴を加え、50℃で５分間加温するとき、溶液は、青色～青緑色を呈する。
③ 本品の水溶液（１→10）は、カルシウム塩の定性反応を呈する。
純度試験
① 比旋光度 本品約2.5gを0.01gの桁まで量り、その数値を記録し、水に溶かし、100mLとし、この溶液につき、旋光度を測定するとき、$[\alpha]_D^{20}$＝＋95～＋97°でなければならない。
② 重金属 本品1.0g（0.95～1.04g）を量り、重金属試験法第２法により試料溶液を調製し、鉛標準液2.0mLを用いて比較液を調製して重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（20μg/g以下）。
③ ヒ素 本品0.5g（0.45～0.54g）を量り、ヒ素試験法第１法により試料溶液を調製し、装置Aを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（４μg/g以下）。
強熱残分 30.0～33.0%（１g）
定量法 本品約0.2gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、メタリン酸溶液（１→50）50mLを加えて溶かし、0.1mol/Lヨウ素溶液で滴定する（指示薬 デンプン試液１mL）。
0.1mol/Lヨウ素溶液１mL＝10.66mg $C_{12}H_{14}CaO_{12}\cdot 2H_2O$
(イ) 保存の方法の基準
遮光した気密容器に保存すること。
イ 製剤（その１）
(ア) 成分規格
L-アスコルビン酸カルシウム製造用原体の成分規格を準用する。
(イ) 保存の方法の基準
L-アスコルビン酸カルシウム製造用原体の保存の方法の基準を準用する。
ウ 製剤（その２）
(ア) 成分規格
本品は、L-アスコルビン酸カルシウム製造用原体に、賦形物質を混和した粉末又は粒子である。
含量 本品は、定量するとき、表示量の90～120%に相当するL-アスコルビン酸カルシウム（$C_{12}H_{14}CaO_{12}\cdot 2H_2O$）を含む。
確認試験
① 本品の表示量に従い、L-アスコルビン酸カルシウム製造用原体0.15gを含む量を量り、水15mL、及び硬化油、高級飽和脂肪酸、脂肪酸、植物性油脂又は動物性油脂を含む製剤にあっては、クロロホルム５mLを加え、振り混ぜた後、静置し、水層をろ過し、試料溶液とする。この溶液２mLを量り、以下L-アスコルビン酸カルシウム製造用原体の確認試験①を準用する。
② ①の試料溶液１mLにメタリン酸溶液（１→50）９mLを加え、混和する。この溶液５mLを量り、以下L-アスコルビン酸カルシウム製造用原体の確認試験②を準用する。
定量法 硬化油、高級飽和脂肪酸、脂肪酸、植物性油脂又は動物性油脂を含むものにあっては第１法、その他のものにあっては第２法を用いる。
第１法 L-アスコルビン酸カルシウム（$C_{12}H_{14}CaO_{12}\cdot 2H_2O$）約0.1gを含む量の本品を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、クロロホルム50mLを加え、振り混ぜた後、ガラスろ過器（G４）を用いてろ過し、ろ過器上の残留物を、さらに、クロロホルム20mLずつで３回洗う。残留物のクロロホルム臭がなくなった後、メタリン酸・酢酸試液約190mLで抽出しながらろ過し、ろ液を200mLの全量フラスコに入れ、メタリン酸・酢酸試液を標線まで加えて200mLとし、試料溶液とする。試料溶液２mLを全量ピペットを用いて量り、メタリン酸・酢酸試液８mL及び過酸化水素試液２mLを加え、振り混ぜた後、滴定用２，６-ジクロルフェノールインドフェノールナトリウム試液で溶液が５秒間持続して淡紅色を呈するまで滴定する。同様の方法で空試験を行い補正する。